



【ジャケッツイラスト】

【台本】

／／トラック①

(ナレ) あなたは学校の先生。

生徒たちは皆、夏休みを迎えていた。

連日の真夏日まなつびが続く中、ある日あなたは、

2人の教え子を学校のプールに呼び出した。

2人の名前は、「櫻井春さくらいはる」と「天野夏希あまのなつき」。

どちらもあなたと、特別な関係を持つ女の子だった。

この日あなたは……

見たことない女の闘いを目にする。

「……今日は先生との、特別レッスンだと思ってた」

「……誰？ その女」

櫻井春が、プールサイドからあなたの方へ声をかけた。

「先生、私と合わせたい女って、そいつ？」

あなたの隣の天野夏希がその声に反応する。

「ああ……。前に言ってた女か」

「聞いてたんだ。じゃあ話は早いね」

夏希

春

(ナレ)

夏希

(ナレ)

春

春

春

「……そうね」

夏希

「今の彼女は私だから。よろしく」

春

「……先生は私のもの。2番目の女は帰れば？」

夏希

「ふっ。先生、こんな女が良かったんだ」

春

「……不愉快。ふゆかいこの女のどこがいいの？」

夏希

「身体からだの相性じゃない？ あと、おっぱいも大きい」

春

「……1年前まで、ほぼ毎日、私とセックスしてた。

あと、おっぱいも私のほうが大きい」

夏希

「でも今年、先生がうちの学校に来てからは、

私と毎日やってる。元彼女さんはどうなの？」

春

「……今朝やった。お前が来る前。気持ちよかった」

夏希

「へえ」

春

「……先生も、やっぱり私の方が気持ち良いって言った。

おっぱいも、私の方が大きいって」

夏希

「ああ、お世辞で言ってるのがわからないバカなんだ？」

春

「……遊ばれてるのがわからないバカに言われたくない」

夏希

「ああ、ごめん。言っていなかったけど……」

夏希

「私たち、さっきまでやってたから♡
マウント取れたと思った?」

春

「……それで?」

夏希

「最高だったよ。先生も、何回逝ったかわからないって」

夏希

「あ!そうそう……先生、窒息プレイ大好きじゃん。

先生言ってたよ。私のおっぱいで絞められたほうが、
苦しいって」

春

「……わかってない。

私の爆乳で絞めたら、そんなこと言う余裕無いから」

夏希

「なに、怒った? おっぱいに自信あるの?」

春

「……自信もなにも、圧勝してる」

(ナレ)

春は唐突に、夏希の水着を掴み胸のあたりを引っ張った。
ポロンと大きく張りのある胸が零れ落ちた。

春

「……………貧乳」

夏希

「Kカップのおっぱいが見えないんだ」

春

「……こんなじゃ、先生は満足しない。

同じKカップでも、私のほうがボリュームがある」

夏希

「カップの数え方、教えてあげようか? 貧乳」

春

「……あ、怒った。本当のこと言われたから」

夏希

「ふふ……先生。やっぱりどっちも譲^{ゆず}らないからさ、喧嘩で決めていいよね？」

勝った方が先生の正式な彼女ってことで」

春

「……先生。バカは身体^{からだ}で覚えないと、わからない。

……どっちが先生にふさわしいか、こいつに教える」

夏希

「良かった〜こいつなら遠慮なく潰せる」

春

「……私、手加減できないから」

夏希

「じゃあさ、おっぱいで絞め殺した方が勝ちでいいよね？」

春

「……望むところ。わかりやすくていい」

夏希

『『噛みつき』と「目つぶし」はだけ無しにして、

それ以外は何でもあり。それでいいよね」

春

「……それでいい」

夏希

「そっちから、何かある？」

春

「……あ。忘れてることがあった」

///SEビンタ音

夏希

「ぷふっ!!」

春

「……『挨拶^{あいさつ}』、忘れてた」

夏希 「……そうね、『挨拶^{あいさつ}』してなかったよね」

///SEビンタ音

春 「ぷっ!!」

夏希 「遅れて悪かったね。ぷっ!! うっ！」

///SEビンタ音

春 「……ごめん、耳に入った。ぷっ!! ぷあっ！」

///SEビンタ音2回

夏希 「ごめん、2回打っちゃった」

春 「……まどろっこしい」

夏希 「そうね……『ここ』で潰し合うんだったよね」

(ナレ) 夏希 は自分の胸を指さした。

夏希 「んっ！」

春 「ん……っ！」

(ナレ) 35度を超える真夏のプールサイド……

ビンタを打ち合った春と夏希は、次に互いの身体^{からだ}を

抱きしめ合った。胸と胸を合わせて、えぐり合うように……

夏希 「まずは、ウォーミングアップから始めようか」

春 「……絞^しめてみなよ貧乳」

夏希

「ああ、まだ挑発するんだ。いいよ、すり潰してあげる」

春

「……ふっ!! ふう……ふう……ふう……ふう……ふんっ!!」

「……ふう……ふう……ふう……ふう……ふんっ!!」

夏希

「……ふっ!! ふう……ふう……ふう……ふう……ふんっ!!」

「……ふう……ふう……ふう……ふう……ふんっ!!」

春

「……息あがつてる。ふう……苦しいんだ?」

夏希

「ふう……ふう……汗かいてるくせに、偉そうだねえ」

春

「ふう……ふう……押し込んでるのは、私」

夏希

「んっ……ふふ、そう見えた?」

夏希

「これ、作戦だから」

春

「くっ!! んっ!」

(ナレ)

春の身体が浮き上がった。そのまま絞り上げる……

夏希

「私、喧嘩には慣れてるから」

春

「……んおお……はあはあ……おえ……ッ!」

夏希

「あは! 潰れちゃった?」

春

「はあはあ……効いてない……」

夏希

「ああ、心配しないで。苦しいのはこれからだから。

んんんッ!! ああッ!!」

(ナレ)

春は夏希の腰に両足を巻き付けた。

全身で夏希の身体からだを絞しぼり上げる。

春

「……潰し合いなら、私も慣れてる」

夏希

「んん……おええッ……ふんんっ！」

春

「くっ……ッ！ おえっ」

(ナレ)

怯むことなく、夏希も絞め返す……

発達した胸同士が、居場所を奪い合うように争った。

夏希

「ふう……ふう……はあ……はあ……」

春

「ふう……ふう……はあ……はあ……」

夏希

「シンンッ……ッ！」

春

「……っ！ あああッ！」

(ナレ)

夏希が春を抱えて倒れ込んだ。

胸の潰し合いはやめなかった。熱いコンクリートの上で、

転がりながら上を取り合う……

夏希

「ふう……ふう……くうううう！ はあはあ！

はあはあ！ んんんっ！ はあはあ！ くっ！」

春

「はあはあ……んんんっ……んんっ……くううっ

はあはあはあ！ うぐっ！ はあはあ」

(ナレ)

彼女達は本能的にわかっていた。
上を取られたらまずいと。

春

「はあはあ! ふんんんんんっ!!」

夏希

「はあはあ! 残念♡ 上、取られちゃったね?」

春

「はあはあ……くっ……うつ……お……」

夏希

「耐えてみなよ……♡」

(ナレ)

夏希は尻を突き上げた。上半身をねじり込むように、
胸に体重を預け、強く絞めあげた……

春

「くっ……ぷっ……おえええええッ!!」

夏希

「ちよつと♡ 唾液、汚だえきいきたなんだけど」

春

「はあはあ! はあはあ!

……お前の汗よりは、汚くない……んっ! おえっ!

夏希

「減らず口、聞けなくしてあげるよ……」

(ナレ)

蛇のように春の身体を絞めつける夏希。

春

「あう……っ!……ふう……ふう……か、かあ……

ん……おええええええッ!!」

夏希

「なに、もう終わり? 格の違いがわかった?」

春

「ふう……お前に負けてるとこなんて、一個もない。

ふんんっ……!!」

夏希

「くっ……ふ……あんたは私の下よ」

春

「……返してやる……ッ! くっ! おえっ!」

夏希

「その前に死ぬよ♡ ふう……ふう……ふう……」

(ナレ)

春のブリッジを、何度も夏希が抑え込む。

春

「ぐっ……! おええええッ!」

(ナレ)

コンクリートに身体からだを押し込まれる度、

苦しみが春を襲った。

夏希

「ねえ、おっぱい舐めながら泣いて謝るなら、

許してあげるよ♡」

春

「ふう……ふう……はあはあ。いらない……

お前だけは殺すから」

夏希

「ふふ……いい条件だと思ったのに……

ああああああッ!」

春

「んうううーっッ!」

(ナレ)

夏希の左脚ひだりあしに、春は絡みついた。強引に身体ひねを捻り……

春

「……この……ッ!」

夏希 「ハアハア……んあああッ!!」

(ナレ) 春は上を取り返した。無言で胸を重ね、腕を回す……

そして怒りを込めて抱き絞め返した。

夏希 「ぐっ! ぶぐ! ぶええええええッ!

おええええええッ!!」

春 「……お前こそ汚きたない」

夏希 「はあはあ……ごめんね、これお詫わび」

春 「ぐううううッ! うえええええッ!!」

(ナレ) ギロチンのように春の腰を太ももで絞め返す

夏希 「おえええええッ!! こ、根比こんくらべかしらね」

春 「……お前には……まけない……おえッ!!」

春 「ふう……ふう……はあはあ……ふうふう……

おええッ……ふんっ……く……んええッ……」

夏希 「ふう……ふう……ふうふう……おえッ……ふんっ

……ふうふうふう……んんんっ……」

爆乳のプライドを賭けた潰し合いは……

春 「おえええええッ!!」

夏希 「んおおおッ!! おええッ!!」

(ナレ)

2人の予想を超えて、長く続いた……

夏希

「泡^{あわ}噴^ふきなよ……ほら……んえええッ!!」

春

「はあはあ……お前がおちろ……うええええッ!!」

(ナレ)

いつもは相手を瞬殺していた。

唾^{だえき}液を相手にぶちまける。そんな経験したことがなかった。

夏希

「はあはあはあはあはあはあ!」

春

「はあはあはあはあはあ! んあああッ!」

夏希

「はあはあ……ほら、ひっくり返すよ……ふつつ!!」

春

「ふつつ!! ぐううっ!! おええっ!!」

夏希

「ふんんんっ!!」

春

「あああああっ!!」

(ナレ)

春は上から落とされたが、踏ん張った。

夏希と春が横向きに抱き合い、そのまま抱きしめ合った……

2人の力が拮^{きつこう}抗し、どちらにも動かない……

それでも大きな乳房^{ちぶさ}が、相手を飲み込もうと衝突を続ける。

炎天下の中、10分近くそのまま経過した。

夏希

「はあ……はあ……はあ……はあ……ふう……ふう……

ふう……ふう……」

春 「はあはあ……はあ……はあ……うつ……ぐ……はあはあ

はあはあ……はあはあ……ンンンツ!!」

夏希 「お、おええええええええツ!!」

春の渾身こんしんの絞めに、夏希も即座に応戦する

春 「あああああああッ!! おえええ……ツ!!」

(ナレ) 胸と胸が潰れ合い、肺に空気が入らない……

それでも互いに、手を緩めることはなかった。

夏希 「おお……ツ!! ん、えええツ!! かあ……ツ!

あっ……ッ! おえええツ!!」

春 「お、ええええツ!! か……かあ……っ! うぐ……

えええええツ!! おえツツ!!」

(ナレ) 呼吸の限界に達したそのとき……

夏希 「ぷはあああッ! はああ……はあ……はあ……!」

春 「ぷはあああッ……ッ! はあ……はあ……あああ……」

(ナレ) お互いの腕が同時にほどかれた。

／＼トラック① 終

／＼トラック②

春 「……はあ……はあ。……アップは、もういいよね」

夏希 「はあ……はあ……ええ、熱い一日になりそうね。」

流石に抑え込まないと、仕留められないかも。はあはあ」

春 「……しゃべってないで、早く来い……はあはあ」

夏希 「あんたが来なよ、元彼女」
もとかのじょ

(ナレ) 2人は同時に、相手の水着へ手をかけた。

夏希 「あゝあ。この水着、高かったんだけどなあ……」

春 「……何？ 怖くなった？」

夏希 「ふふ……最後にいっておくね♡

おっぱいで殺されなくなったら……」

夏希 「私の乳首舐めながら命乞いしなよ。」

許すかもしれないから」

春 「……私も言っておく」

春 「……おしっこ出して土下座するなら、勘弁してあげる」

夏希 「……ああ。久しぶりに本気で潰したくなった」

春 「……やってみなよ、口だけ女」

(ナレ) 静かな睨み合いが続いた。

お互いにいつでも切り出せるが……動かない。

経験したことが無い緊張があった

そしてふと、日差しが雲で遮られたとき、戦いは始まった。

「んんんんんんんッ!! くっ……ッ!」

「あああっ! はああッ!」

水着を掴み合って、互いの身体を振り回す……

いきなり2人の水着から大きな胸が零れ落ちた。

「……はあはあ……貧乳……やっぱり私の方が大きい

はあはあ……んん……っ」

「はあはあ……はあはあ……

そんなおっぱいで勝てると思ってたんだ?」

「……今潰してあげる」

「はあはあ……こっちのセリフ……」

もう水着だけではない。髪・耳、胸、掴めるところを

すべて引っ張りあった。

「っ! 痛^いたいわね! おっぱいに爪^{つめ}立てるな!!」

「……おまえこそ、乳首のさきつぽばかり……!

ひっぱるな……ッ! んくっ!!」

夏希

「はあはあはあはあ! ああ、痛かった?
もつと力いれてあげる」

春

「んんっ! 、あああああああんっ!!」

くううう……おかえしい……っ!! ……このバカ」

夏希

「ああああああッ!! だから、爪を、立てるな!!」

、ああああッ!!」

春

「……乳首が……っ! くううううッ!!」

「はあはあはあはあ……ッ!! はあはあはあはあ!!」

夏希

「はあはあはあはあ……ッ!! はあはあはあはあ!!」

(ナレ)

首に腕を掛けて絡みつきながら、乳首を責めあう2人
両者の闘いは一層激しくなった。

春

「……くうううっ!! ちくびい!!」

ああああッ! ひっぱるな……っ」

夏希

「はあはあはあはあ……じゃあ、ぶっ倒れなさいよ……」

春

「……お前が、這^はいつくばれ……」

夏希

「格下に……負けるわけないでしょ……乳首、

使えなくしてあげるよ」

春

「……私だって、そのつもり……はあはあ……」

(ナレ)

先生に相手にされない身体に……してやる……」
取っ組み合いの末、同時に膝をついた。

それでも、どちらも乳首への攻撃をやめない。

いやむしろ、お互いが同じことを考えていた。

相手の乳首を驚掴^{わしづか}みにし、なんとその先端を……

春

「いゝやああああああああッ!!!!」

夏希

「ゝああああああッ!! ああああ!!!!」

(ナレ)

熱いコンクリートに擦り付けた

春

「……ああッ!! あああッ!! あつい……ッ!!」

夏希

「ゝああッ……ッ! ああッ!! 焼ける……ッ!!」

(ナレ)

たまらず胸を庇^{かば}う2人だが、春が先に動いた。

春

「ふんんんんんんッ!」

夏希

「うぶうううッ!!」

(ナレ)

夏希の顔を脇に挟んで倒れ込む……

それだけで大きな胸が夏希の呼吸を奪った。

春

「……雑魚^{ざいご}。そのまま死んで……
どんな気持ち？」

勝てると思った女のおっぱいで死ぬのは？」

夏希

「んぶううっ！ んぶう！ ぷはあああ！ はあ！

んぶうっ！ ぶうううう！ はあはあ！

こんな程度？ 全然苦しくないんだけど はあはあ！

むぐううううううっ!!」

春

「……私のおっぱい柔らかいから……逃げても無駄。

……水着^{やぶ}、破^{やぶ}いてくれてありがとう。

生乳^{なまちち}の方が苦しいから」

夏希

「ぶぐうッ！ ぶぐう！ ぷはああッ！ おええええッ!!

おええええッ!! ぶぐううううッ!」

春

「……ほら、死んで。先生も私のおっぱい責めの方が、
苦しくて喜ぶから」

夏希

「ぶはあああッ!! ぶううううう！ ぶううううう！

おえええええ!!」

(ナレ)

顔を左右に振って、必死に息を吸う夏希。

春も追いかけるように、器用に胸を押し当てていた。

しかし……



春 「はうはうはう♡」

夏希 「ぷああああっ! はあはあ……」

なに、そんな声出るんだ♡」

春 「……まんこに……水着が……んん♡

食い込む……♡ や、やめろ……」

夏希 「はあはあ……力抜けちゃったねえ……♡」

春 「ゝああああああああッ!!♡」

(ナレ)
怯んだ春の乳首を捻り上げながら、

夏希は上体を起こした。馬乗りになって、乳首を掴む。

夏希 「あんたへの乳首責めは、気持ちいい方が効きそうね」

春 「……んえええええ♡ おおお♡ おおお♡

おおおッ!!♡」

夏希 「あはは♡ ねえ、逝^いってる場合?

私達殺し合いしてるんだよね?」

春 「んぶうううう!! ぐ、ぶううううッ!! ぶうう!!」

夏希 「お・か・え・し・が・た・め♡」

夏希の爆乳に春の顔が埋まった。

夏希 (ナレ)
「どっちのおっぱいが強いだろうね?」

春

「んぶううう!! んぶうううう! うううう!!」

夏希

「ほら、窒息しちゃうよ♡」

春

「……ぐ、ぐぶうう……ぷはああッ!! おえええッ!!」

夏希

「誰が呼吸していいって、言ったの？」

春

「ぶうううう! んぶうう! んぶううう!」

夏希

「ねえ……誰が貧乳だって? もう一度言ってよ?」

春

「あああ……おえええッ! んぶぐううううう!

ぶうううッ! ぶうううーッ!!」

夏希

「あはは♡ 私胸で死ぬるなら満足でしょ?

男はみんな喜ぶよ?」

春

「ぶぐ……ぶつ……んんッ……! ぶぐッ……!」

夏希

「ほら……からだ身体、震えてきたね……」

そのまま漏らして死になよ」

(ナレ)

春は夏希の水着を両手で掴んだ。

それを思い切り引っ張ると、股間に水着が食い込んだ……

夏希

「んああん♡ はあ♡ んっ……♡ ふふ♡

私のマネしかできないんだ?」

春

「ぐんあ……………!! ああア……………あああ……

げほッ! げほッ! おえええッ! ぶううううッ!

夏希

「無駄だよ……………♡ んんッ……………♡

あんたと違って、すぐ逝く女じゃないから」

春

「……………ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん!!」

夏希

「あゝ、苦しそう♡ ふう♡ ふう♡ ねえ……

どっちのおっぱいが先生にふさわしいか、わかった?

ああんッ♡」

(ナレ)

夏希の水着が、春の力に耐えきれず千切れた。

夏希

「はあはあ……………残念でした♡」

春

「ぐんんんッ! んんんッ! んんんッ!

ぐんんん……………ッッッ!」

夏希

「はううううッ!!♡ こ、いつう……………ッ♡」

(ナレ)

春は夏希の股間に指をねじ込んでいた。

春

「ぐんぶううううッ!! ぶううううッ! ぶううううッ!

夏希

「はあ……………♡ あああ♡ んああああッ♡

この……………死にぞこない……………♡」

(ナレ)

夏希の胸の圧迫が僅わずかに緩んだ時、
春が胸を手で押し上げた。

春

「はあはあはあはあ!! お、ええええッーッ!!
けほッ! けほッ! この程度の絞めで……ハアハア……
死ぬと思った?」

夏希

「死にかけの豚が……はあはあ……はあはあ♡ シンッ♡」

春

「……しっかり感じてるね。すけべ女♡

はううううッ……♡」

夏希

「はあはあ……なによ、手マン……気持ちいいの?

んんん……っ♡ はあはあ♡ はあはあ……♡」

春

「……お前こそ、力、抜けてる。はあはあ♡

……私の指に、まんこが吸い付くんだけど……

……気持ちわる。んっ♡ おお……♡」

夏希

「ほら……次逝ったら、また絞め殺すよ……」

春

「はあはあ……やってみろ……へたくそ」

(ナレ)

2人は相互に手マンで責めあった。

反応を見ながら、弱いところを探り、そこを刺激する。

こいがたき
恋敵の女に逝かされるなんて、この上ない屈辱だった。

春

「はあはあ♡ んん……♡ んっ……アッ……はあはあ、
んんっ……♡ あああ……♡ おお……おおお……
んんっ……はあ♡ うんっ……♡」

夏希

「はあはあはあ……♡ んうっ……♡ あああ……

ゝああ……♡ んんっ……アッ……はあはあはあ♡

んおお……♡ あああ♡ あああっ♡」

春

「んッ! ゝおほおほおほおッ!!♡」

夏希

「はあはあ……あんた、ここが弱いんだ……♡

わかつちやった♡

んほおほおほおほおッ!!♡」

春

「……はあはあ♡ お互い様……

お前の弱点……みつけた……んおおおッ!!♡」

夏希

「はあはあ♡ 効いてないけど、別に……おほおッ!!」

春

「はあはあ♡ 私だって……おほおッ!!」

夏希

「んぐっ!……逝けえ……はあはあ……逝け……! 逝け!

はあはあ♡ 逝けええ! はあ♡ あんたには……

絶対にまけない……はううう♡ さっさと逝けえ!」

春

「あああ……逝け……お前が……さきに逝け……あああ♡
逝けええ♡ 先生の前で……恥かせてやる……
はあ……逝け逝け逝け!!」

夏希

「はあはあはあ♡ ぅんおおおおおおおッ♡

ああああ♡ ぐぞお……奥まで……挿入^{いれ}れるな……!!」

春

「……はあはあはあ♡ このお……はううううう♡
かき、まわすなあ……!! ぅんおおおおおッ♡」

夏希

「ああああ……♡ だめえ……♡

逝っくうううー!!♡♡ (絶頂)」

春

「……だめ♡ ……だめえ……♡

逝くッ♡ 逝っちゃうううう♡ (絶頂)」

(ナレ)

春と夏希は同時に絶頂を迎えた。

盛大な潮吹きをあなたの前で見せてしまう。

そして全身の力が抜け、両者共に倒れた……

春

「はあはあはあはあはあ♡」

夏希

「はあはあはあはあはあ♡」

(ナレ)

だが、2人ともすぐに立ち上がった。

倒れていたら、あの胸で潰されるのが目に見えていた。

春

示し合わせたように、唇を合わせる……

「んじゅっ……むちゅ♡ あんむ……♡ ちゅぱっ……

むちゅ……♡ んじゅるるるる♡ むちゅうう……

ぶじゅうう! じゅるるる! はあはあはあ♡

んじゅるううううう!!♡

はうううッ♡」

夏希

「じゅっぱ♡ ちゅうう♡ んじゅるう♡ むちゅ♡

ちゅぱ……♡ じゅるううう♡ あああむ♡

ぶちゅう♡ じゅるるるるう! はあはあ♡

じゅるううううう!!♡

はうううッ♡」

(ナレ)

さらに乳首の先端同士を擦り合わせながら、

手マンを再開する2人

すべては愛する人のため……

そして、憎き恋敵にく こいがたきを排除するためだ

「んじゅ♡ あああ♡ あああ♡ ちゅぱっ……♡

……、おおおッ!!♡♡ ぶえええッ!!」

夏希

「むじゅ♡ はあはあはあ♡ ちゅぱあ……♡

……ッ! おほおおおッ!!♡♡ ぶええええッ!!」

(ナレ)

我慢できず、唾液^{だえき}をお互いにぶっ掛け合い……

脚がガクガクになっても、手マンを続けた……

春

「……えええ♡ えええ♡ えええ♡

おまえに……だけは……」

夏希

「あああ……♡ あああ……♡ おおおお♡

あんたに……だけは……」

春

「……ぜったいに……ゆずらない……ッ!」

夏希

「ぜったいに……ゆずらない……ッ!」

(ナレ)

壮絶な手マン勝負は、永遠に続くようだった。

しかし……

夏希

「か……かあ……♡ おッ♡ おおお……ッ♡

春

「……あえッ♡ ……んお……おおお……ッ♡

(ナレ)

それは突然終わりを迎えた。

両者が後ろ向きに、ひっくり返った。

まさに限界だった。

夏希

「あへえええええーッ!!♡♡ (絶頂)」

春

「ゝおほおおおおおッ!!♡♡(絶頂)」

(ナレ)

2人のぶちまけた潮しおが、相手の顔に降り注いだ。

綺麗な相打ちのはずが、彼女たちにとっては、

負けたような感覚だった。

すぐに身体を起こさないといけない……

だが、痙攣けいれんして動かなかった。

春

「はああ! はあ! はあ! あへえ♡ あえ♡ あえ♡」

夏希

「ゝおおお! はああ! はあ! はあはあはあ!

アッ♡ おお、お♡」

(ナレ)

相手を睨みつけながら、ゆっくりと身体を起こした。

互いに水着がビリビリに破けている。

夏希は、破れて使えなくなった水着を投げ捨てた。

何一つ身にまとわない、

生まれたままの姿で、春と対峙たいじした。健康そのものの

引き締まった肉体……

105センチ、Kカップのバストはまだまだ張りがあり、

春との潰し合いを望んでいるようだった。

夏希

「弁償しなよ、この水着」

(ナレ)

春も使えなくなった水着を、ゆっくり足元に脱いでいく。
メリハリのある肉体が徐々にあらわになった。

そして、春の105センチ、Kカップの爆乳が、

身体の動きに合わせてプルプルと震えた。

夏希を挑発するように……

春

「……もう着る機会、ないでしょ？」

お前が負けるんだから」

(ナレ)

全裸の爆乳美女同士が向かいあった。

夏希

「そろそろ、決着つけようか」

夏希

「ねえ、先生。部室使っていいよね。肌が焼けちゃう」

(ナレ)

夏希があなたの方へ裸で歩いてきた……

後ろから春が続く……

夏希

「それに、ここからの闘い、先生見ない方がいいよ」

春

「……えげつない潰し合いになる。」

見せられるようなもんじゃない」

夏希

「じゃあ行ってくるね。」

このドアから出てきた方が先生の彼女だから。

ちゅっ！（キス） 私が帰ってくるのを待ってて♡」

春

(ナレ)

「……ちゅ♡(キス)」

先生、途中で止めたら許さないから。

終わった後、私といっぱいセックスして♡」

SE 〓ガチャ

ドアが閉まり、部室は2人だけの空間になった。

そこから2時間、勝者がドアを開けるまで、

あなたは叫び声あえと喘あえぎ声、

悶もだえ苦しむ声を部屋の外から聴くことになった。

〓 トラック② 終

／＼トラック③

夏希 「ぷはっ……! 水、飲み終わった?」

春 「……ぷっ。……いつでもいい」

(ナレ) 2人が口元を拭って、ゆっくりと近づいた。

柔らかい爆乳がむにゅっと潰れる位置まで、

一気に接近する。相手の吐息が顔にかかる距離だ……

夏希 「ルール覚えてる?」

春 「……おっぱいで絞め殺した方が勝ち」

夏希 「そう。そのためなら、噛みつきと目潰し以外、

なんでもするから」

春 「……わかってるし、私もやる」

夏希 「ふん、楽しみ」

(ナレ) 2人は一歩相手から離れた。だが、目を離さない。

夏希 「それじゃあ……やろっか……ッ」

夏希 「うぐっ……!?!」

春 「ふんんッ!」

(ナレ) 始まった瞬間、春は頭から夏希の腹に突っ込んだ。

ロッカーに背中からぶつかるが、夏希は倒れない。

夏希 「いいねえ……決闘^{けつとう}って感じ……」

春 「はううううッ♡♡」

(ナレ) 春のアナルに夏希の指がねじ込まれた。

その指で、春の中を掻^かきまわす……

春 「ゝおッ♡ゝおおッ♡」

夏希 「んんんおおおッ!!」

春 「あ……ああッ……!」

(ナレ) 春の身体^{からだ}が持ち上げられた。

そして春の身体^{からだ}を床に投げ倒す

春 「んああッ!!」

夏希 「はあはあ……お腹への頭突き……結構効いたよ♡」

(ナレ) 正面から夏希は覆いかぶさった……

胸に胸を当て、手足を絡めていく……

夏希 「おかえし……♡」

春 「……ガッ! ぐッ……! ぼおええええええッ!!

ゝええッ……おええッ!!」

(ナレ) 飲んだ水を吐き出すほどの、強いプレスだった。

行き場無くした春の胸が潰れ、押し広がる。

夏希

「はあはあ……汚な♡ もう死ぬんじゃない？」

春

「……んえええッ……!! か、かあ……! ぐ……ッ

ふうふう……重いだけ……」

夏希

「ふふ……メス豚が……ッ!」

春

「ゝおおおおッ!! んおええええッ!! はあはあ!

、あああッ!!」

(ナレ)

苦しみながらも、春は夏希の後頭部を抱えた。^{かか}

そしてなんと、自ら夏希の唇に吸い付き、

空気を吸い上げた。

夏希

「んぐううううう!? グうううッ!! ぶうううッ!!」

春

「んちゅうううううう!! じゅるうううううう!!

んんんんんんんんッ!」

(ナレ)

捨て身の責めは、功を奏した。

一気に夏希の余裕がなくなり、春に振り落とされる。

夏希

「ぺっ! 気持ち悪い攻撃ばっか」

春

「はあはあはあ……ぺっ! こっちだって我慢してる」

(ナレ)

2人は休むことなく、今度は胸からぶつかり合った。

相手をひっくり返すため、

互いの秘部ひぶに指を入れて、持ち上げ合う。

夏希

「ゝあああッ♡ゝあああッ♡ゝあああッ♡

逝けええエッ! んあッ♡ ああッ♡ はあはあはあ♡

はあはあはあ♡ゝおおおおッ♡」

春

「はあはあはあ♡ あああッん♡ まける……もんか……

ゝおほおおッ♡ おまえ、なんかにい……! ゝああ♡

ああ♡ はあはあはあはあ♡」

(ナレ)

命がけの力比べ、そして逝かせ合いは……

夏希

「ゝオオオッ♡!! おほおおおおッ♡♡!! (絶頂)」

(ナレ)

春に軍配ぐんばいが上がった。

春

「……ふんんんんッ……ッ!!」

夏希の身体が持ち上がり、潮を噴きながら投げ飛ばされた。

頭から床に落とされ、大の字に倒れ込む。

夏希

「ゝおお……ッ♡ ああ……♡ くうう……!」

はあはあはあ……はあはあ……」

(ナレ)

次に夏希が目を開いたとき、すでに春の巨大な胸が、顔を覆いつくしていた。

夏希

「ぶぐううううッ!! うっッ……!! ぶううッ!!
ぶぐう!! ぶぐううう!!」

春

「……はあはあはあ……! 死ねえ……ッ!

……先生は……私のもんだ!」

夏希

「ぶぐッ……! ん、ん……ぶ……ぐ……!」

春

「おっぱいだって……わたしのほうが……

おおきいんだから! はあはあはあ!

こ、こほおッ!」

(ナレ)

夏希の両手が春の首に届き、喉を絞めた。

春

「んぐ、おおお……! か、かあッ……!」

夏希

「ぶはあああッ! ぶはあああッ! ぶはああッ!

ぶはああッ! あんたなんか! 絶対……

はあはあはあッ! 負けないから!

かああ……ッ!!」

(ナレ)

春も喉を絞め返した。

春

「けほっ!! か、かあ! か……ッんえええッ!!

うええええッ!」

夏希

「お、おえええ……ッ！　ぐ、ぐう……！　んえッ！
うおえええッ!!」

(ナレ)

春も夏希も気を失う寸前まで、喉を絞めあった。

しかし、ほんの一瞬先に春が限界を迎え、

夏希の上から落ちた。

夏希

「はあはあはあはあ！　けほっ！　けほっ！
はあはあ！　まだ……まだ……」

春

「けほっ！　けほっ！　かあッ！　かはっ！
ぜええ……ぜえ……ぜえ……ぜえ……！」

夏希

「どっちか……しぬまでよ……」
「んぶぐう!!　うえええええッ!!」

春

(ナレ)

夏希は床を這って春の顔に近づき、胸で押し潰した。

乳首が春の眼球がんきゅうに触れる……

まるで春に見せつけるように。

夏希

「……はあはあはあ！　あああ！　あああ！
私のおっぱいの……勝ちよお！　はあはあはあ！」

春

「んん……ッ!!　かッ……！　ぶううッ……!!
ぶぐっ……!!　ぐううう……！　ああ……！」

(ナレ)

暴れる春をしつかり押さえつける夏希。

春の身体が震え始めた……

夏希

「痙攣けいれんしてるよ……♡はあはあはあ……

あきらめなよ……! はあはあはあ! あははあ♡

おしっこも噴いちゃったね♡」

春

「ぐおッ……んぶう……っ……ぶうう……

ん、んんんんんんんんん!」

夏希

「ぐお、おおおおおッ!!」

(ナレ)

夏希の股間に春の膝がめり込んだ。1発どころではない、
2発、3発と蹴り込んだ。

夏希

「あッ! ああああああああーッ!!」

(ナレ)

夏希が股間を抑えて転げまわる。

春

「ぷはあああぁっ! ぷはあああぁっ! んっぷ!!

おえええええええッ! はあはあはあ! はあはあ!

はあはあ……」

夏希

「はあはあはあ! があッ! ぐ、ぐううう!」

(ナレ)

悶もだえ苦しむ夏希の後ろから、春は飛び掛かった。

背中にぴったりと張り付き、腕で夏希の首を絞めつける。

夏希も何とか首を守るために、腕を外そうとする。

必死の攻防だった……

2人の荒い呼吸だけが、部屋に響いた。

夏希

「あああ…… あああ…… はあはあはあ！」

おええっ!! あああ! あっ! はあはあはあはあ!

ふんんんッ……! んぐ! がッ! あああ! ああ!

おえええッ!! あああ! はああ! はあ!

春

「あああ! あああ! はああ……はあ……はあ!

く、くうううう! ……ふんんッ! はあはあはあ!

あああ……! あああ……! ふんっ! つはああ……

はあはあ……! ぐうううう……!」

(ナレ)

春は夏希の身体をひっくり返した。

裏返った亀のように、一層身動きが取れない。

夏希

「あああ! あああ! おっ! おおッ……!

………がつ………かあ………!」

春

「はあはあはあッ……! はあはあッ! はあはあはあ!

(ナレ)

だが、夏希はあがき続けた。

春

「ああああーッ♡♡ あああッ♡ はああああ♡」

(ナレ)

背後にいる春の股間を、指で愛撫^{あいぶ}する。

夏希

「……はあはあ……あああ……いけ……」

春

「……ちから……が……♡ くうう♡ あああ♡」

夏希

「はなせえ……ンン……」

春

「あええ♡ いや……だあ……アツ♡ あ、ああ♡

あええ♡♡ はあ♡ はあ♡」

夏希

「んん♡ はううー♡ はあ♡ はあ♡

はあ♡ ああ♡ ああ♡ ああ♡

あああ!! いっくう♡」

(ナレ)

春も手マンを仕掛けた……

限界を超えた手マン合戦……今後は、

夏希が押し勝った。

春

「んん♡♡ あああー♡♡ (絶頂)」

(ナレ)

愛液^{あいえき}を盛大にまき散らす……

しかし、春もタダでは倒れなかった……

両手で夏希の両乳首を掴み……

夏希

「ゝおお♡ゝおおおおー♡♡ (絶頂)」

(ナレ)

夏希の乳首の先端を指で捻りあげた。

「はあ♡
はあ♡
はあ♡
はあ♡
はあ♡
はあ♡」

「はあ♡
はあ♡
はあ♡
はあ♡
はあ♡
はあ♡」

夏希が春のほうへ身体を向けた。

春

(ナレ)

夏希

「ぼおおッ!! ぼええええッ!!」

春の唾液が噴き上がった。

しかし、すぐに夏希の後頭部に手を回し、

思い切り膝を振り上げた。

「ごえええッ!! んっぷ……おゝええええッ!!」



(ナレ)

夏希の腹が膝でえぐられる……

夏希も唾液をぶちまけた……

それでも攻撃を続ける……

春の腹に今度は、上から膝を突き刺した。

春

「んん、おえええええッーーーーッ!!!!」

(ナレ)

春も息も絶え絶えの中、もう1発膝蹴りを打ち返した。

夏希の股間に、膝が命中した。

夏希

「かあああああッ!! おおおおッ……ッ!

、おおおおおッ! ……こわ……れる……!!」

(ナレ)

しかし、春の膝蹴りと相打ちになる形で……

春

「んおおおおおッ!! あああッ……! ああああ!

、あああああッーーーーッ! くっ……これ……やばい……

、あああッ!!」

(ナレ)

夏希の膝蹴りが春の股間に深く入っていた。

2人は悶えた……身体がまともに動かない……

「はあはあはあ! あああううう!!」

春

「ああ……! あああ……! あうううッ!!」

(ナレ)

ダブルノックアウト。

スポーツの試合であれば、試合続行不可能な状態だ。
だが、これは違う……

夏希 「どちらかが……」

春 「……絞め殺すまで」

(ナレ) 2人は噛みつくように抱き絞めあった。

出せるすべての力で、胸を合わせ絞め潰し合う……

春 「あゝえゝえええッ!! おうえええええッ!!」

夏希 「げえええッ!! おえええッ! おえええッ!」

(ナレ) 吐いた胃液が、相手の肩から背中に流れ落ちた。

ここから決着が付くまで……

彼女達は、永遠に感じるような絞め殺し合いを繰り返した。

(ナレ) 春が夏希を下にして、倒れ込んだ。

夏希 「ぶ、ぶぐ! おええ! げええええッ!」

春 「……はあ……はあ……はあ……はあ……」

その数秒後に、夏希が上下を入れ替える。

春 「あええッ! おええッ! おうええええッ!!」

夏希 「はあ……はあ……はあ……はあ……!」

(ナレ)

夏希が胸を浮かせ、春の顔面に叩きつける。

そのまま春の一切の呼吸を許さないよう、絞めあげた。

春

「おご……ぶ……ぶう……ぶっ……ぶ……」

夏希

「おちろ……おちろ……おちろ……落ちろお……!!」

春

「あああ……!! が、があ……ぶええ……ぶうう！」

んぶううう……!」

(ナレ)

夏希が責めるとき、春が耐えしのぎ……

夏希

「おえええッ!! ぶううう! ぶうううう!

んぶううううう! んぶううううううう!」

春

「ぷはあああッ! ぷはあああッ!

あああ! あああ! あきら……めろお……!

おまえが……しねえ……!」

(ナレ)

春が責めるとき、夏希が耐えしのいだ。

このサイクルは段々と長くなっていき……

「はあはあはあはあ!! おえええ! えええ!

はあはあ!! もう……すこし……!!

はやく……あああ! あああ! ちっそく……

……しろ……!」

春

「おお……ぶ……ぶぐ……ぶ……うええ……！」

んぶ……グ……」

(ナレ)

両者が地獄を味わった……

春

「はあはあはあはあ!! あうう! ああ! ああ!

はあはあ! おまえが………きえろ………!

はあはあはあ! おまえになんか………はあはあ!

ゆずるもんか………!! あああ! はあ! はあ!」

夏希

「ぶっ……ぐ……んええ……ぶう……ッ! つぶう………!

ぶええ………! おええ………っ………!」

(ナレ)

永遠に続くシーソーのように……

「ゝあああッ! ゝあああ! もう………くたばれ!!

つぶ! ……お、おえええッ!!」

生死を賭けた潰し合いが繰り返された……

春

「ぶえええッ! あああ! あああ! はあはあはあ!

うええええッ! はあはあ! しねえ………!

あああ! あああ! もう、死んで!!」

もうほとんど意識はなかった。

春

「ゝおええええっ!! んん! ううええええッ!!」

夏希

「おうえええええええッ!!」

(ナレ)

目の前のライバルを、胸で絞め殺す。

それだけを本能的に続けた……

春

「ああ……!! あああ! あああ! あああ!」

夏希

「はあはあ! お、おえええッ!! あああ……あああ!」

(ナレ)

そしてついに……

一人の女に……
おんな

限界が訪れた……

春

「はあはあはあはあはあ……はあはあはあ!

……遠慮……しないから……」

夏希

「う………ぶ………ぶ………ッ………ぐ………う………」

(ナレ)

どう頑張っても、春の身体が動かない。

春の爆乳によるプレスを……

どうやっても返すことができない。

春

「はあはあ………わたしの………かち………」

(ナレ)

夏希は春の爆乳に、敗北した

「う……う……う……う……う……う……！」

そしてさらに、酸欠の苦しみが身体中を襲った。

「か……かあ……ツ！ んうう……！！ ぶ！！」

春は絞めつけを緩めない。一歩間違えれば、

痙攣する夏希の身体を、容赦なく絞め潰した。

「……あ……んえ……つ……げえ……！」

ふ
・
・
・
・
ふ
ぐ
う
・
・
・
・
ツ
!!
」

まもなく、夏希の身体が許しを請うように尿を噴き上げた。

これは夏希の意志ではなかった。

動物の生存本能が働き、勝手に命乞いをしていた……

「…………きたない」

春は意にも介さず、夏希に一切の呼吸を許さない

夏希
「……………う……………う……………あ……………！
あうあ……………！」

う
……え
う
……
！
└

(ナレ)

夏希が弱弱しく春の胸をタップした。
よわよわ

これも夏希の意志ではなかった。

からだ
身体はすでに、春の胸に屈服していた……
くつぷく

しかしこれも……

春は受け入れない。

春

「……おっぱいの絞め殺し合いでしょ……?」

春

「……どっちな死ぬよね?」

夏希

「んえぐ……ッ!! ……えう!! ぶ、ぶ、ぶっ!!

げぶう!! ぶ……ぶう……ッ!! かあ……ッ!!

……ぶううう!! ……ぶ……う……!!

……」

(ナレ)

夏希の意識は無くなった。

身体が3回大きく痙攣し、尿をまき散らした。
けいれん

その後はぐったりと動かなくなり、

そんな夏希にさえも、

春は2分間、胸によるプレスを継続した……

――トラック③ 終

／＼トラック④

春

「……入って。……私の勝ち」

(ナレ)

ひどい姿で、あなたの前に春が出てきた。

言われるがままに、部室に入ると、

部室の中はメスのおいが充満していた。

そして、春よりさらに体液にまみれ、

ボロボロになった夏希が横たわっていた。

春

「……まだ生きてる。……たぶん。」

春

「……それより」

(ナレ)

春はあなたを押し倒した。

春

「……こいつと先生が、やってるのが不愉快^{ふゆかい}。」

……おっぱいだってこいつより大きい」

あなたと春の性器がゆつくりと交わった。

(ナレ)

春

「……やろ、先生♡ こいつの顔の前で♡

んんん♡ はあああああ♡♡」

(ナレ)

春は積極的に腰を打ち付けた。

春

「うん♡ うん♡ うん♡ うん♡ うん♡ うん♡

……ぎもぢいい♡♡ おおおおッ!!」

(ナレ)

夏希に見せつけるように、声をあげる。

春

「あああ♡ あああ♡ あああ♡

気持ち良くしてくれたお返し♡

……ふふ♡ これがいいんでしょ?♡」

(ナレ)

あなたの顔が柔らかい胸で包まれた。

春

「……空気吸いたいなら、もっと逝かせて♡♡ 先生♡

はうううううう♡♡!!」

(ナレ)

横たわり涙を流す夏希を尻目に、春はセックスを続けた。

春

「……先生♡……もう絶対、離さない♡♡

はあああ♡ んんんん♡ 先生の彼女は……

私だから……!! ああああッ♡ もっと♡

壊してええ♡♡」

春

「、ああああああー♡♡♡♡ (絶頂)」

(ナレ)

あなたに抱き着くように、春は倒れた。

真夏の部室に、

勝者と敗者の残酷な対比が、

はつきりと刻まれた。

／＼トラック④ 終